

昭和四十二年三月二十二日招集(牙交)
第一回市議定会定例会會議錄

館山市議会第二回定例会会議録(第六号)

昭和四十二年三月招集

一、三月二十二日(水曜日)

一、議事日程(第六号)

第一 認定第一号乃至第八号(決算審査特別委員会委員長報告)

第二 保育国の事務の調査について(文教民生委員会委員長報告)

議案第三号 昭和四十二年度館山市一般会計予算

議案第四号 昭和四十二年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第五号 昭和四十二年度館山市簡易水道事業特別会計予算

第三 議案第六号 昭和四十二年度館山市と畜場特別会計予算

議案第七号 昭和四十二年度館山市保養施設特別会計予算

議案第八号 昭和四十二年度館山市入不スル特別会計予算

議案第九号 昭和四十二年度館山市南部簡易水道事業特別会計予算

以上 各款説明

午前 十時 九分 開議

○議長(田中祿郎君)

本日の出席議員数 二十五名

これより第一回市議会定例会第六日の会議を開会いたします。
会議日程についておわかりいたします。

本日の会議に保育園の事務に関する調査の件を追加いたします。
これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(田中祿郎君)

異議なしと認め、よって会議日程は追加され本日の議事はお手元へ
配付の日程表により行ないます。

日程第一 認定第一号乃至第八号昭和四十年一般会計並びに
特別会計決算書を一括して議題といたします。

本件はとくに去る十二月の第四回市議会定例会におきまして
特別委員会を設置し閉会中の継続審査に付されたものであ
りあり。よつて　これより決算審査特別委員会における
審査の経過並びに結果について委員長の報告を求めます。

三四番議員 山本昇君

(三四番議員登壇) (拍手)

○三四番(山本昇君)

決算審査特別委員会におきまする認定第一号乃至第八号の
審査の経過並びに結果について報告中でございます。

去る十二月十五日招集の第四回市議会定例会におきまして
選任された私ども決算審査特別委員会は閉会中
審査の特別附託となりました。

認定第一号乃至第八号即ち昭和四十四年度決算書の審査に
つき二月十五日・二十日・二十三日・三月十三日の四日間、一旦り

委員会を開会いたしまして各会計における決算を慎重かつ
 精細に審査を行いました。

申し上げるまでもなく本決算につきましても既に監査委員の
 手によりて厳格詳細に監査が実施せられその結果本決算に
 ついては適法且正確であることを証明する意見書が附されて
 おるであります。

然し委員会といたしましては議会の立場より附託された
 趣旨を体しきつて慎重に審査を行なったのであります。

特に本委員会といたしましては審査の基本方針といたしまして
 昭和四十年年度における行政の執行について真に市民のための
 政治が行なわれておるかまた議会の意志を

充分尊重して予算の執行が行われているかその

執行が市勢発展のためにどのような効用効果か現わ
 れているかという点につけて特に重点的に審査を行つた

のであります。皆様御承知の通り本間市長が健康上の都合で欠席のまま委員会を開催致しました次第であります。

審議過程に於ける事務的は莫につきまゝは助役収入役及び所管課長より説明並びに回答を求めたのであります。特に最高責任者である市長の答弁を必要とするものにつきまゝは市長の出席を求め答弁を要求することと総括的な審議は終つたのであります。然るに当初予定しておりました市長の出席が皆様の理解と好意に基く議会の良識ある処置によりまして御承知の通り予定が変更されたのであります。そこで本委員会といたしまゝも早速委員会を開き協議いたしまして当初の予定を急遽変更し市長に付する質疑を要望に切り替えまして皆さんに報告する。

形をとった次第で御座います。

尚本報告にあたりまして皆様方の御諒解を得たいと存じますのは本委員会におきまゐる個々の質疑応答は一応省略させていただき論議されました

主なる点と要望致しました事項を即報告申し上げまゐるのでこの点とくと御諒承願いたいと存する次第でございます。本委員会は四日間にごりまして審議を行つたのであります。特に決算の重要性に鑑み早年度に執行されました主な事業購入物件等につきまゝて現地へ出向し実地調査を行い審議いたしたのでござります。各委員の活発な質疑は広汎かつ多岐に亘りその指摘されました個所は実に一三〇余個所に亘りその内容はさきに申し上げました審査の基本方針を中心として行われたのであります。

以下委員会におきまする審議の主なる点と申し上げます。

昭和四十年年度の予算審議に当り予算委員会として
予算執行について要望を附帯決議されたことがありま
す。か過去ニ十年に亘り単年度赤字克服し四十年度に
於ては五千万余の繰越金を生じて居りその努力に
対しましては敬意を表します。か議会の予算審議権を
真に尊重して居るかという点につきましては尚不満足
の点がありこの議会の審議権を今後充分に尊重し
予算執行に当るべきであるとの意見が強く打ち
出されました。

決算審議を通じまして特に考えさせられる点は

その予算の執行に當って流用 不要額が各所に見受
けられ、教育予算の面においてこの点が多いと共に
執行に當って信念の欠如が見受けられる。

議会で充分検討審議の結果承認されたい予算である
以上信念をもちて執行されるべきに不拘これが完全に
執行されていい

特に房南中学校々舎の執行と水建築の調査費の面へ
於て二転三転しておりましてこの莫痛感される処であり
ました。

本間市長は議会におきても亦公開の席上におきても
義務教育費における父兄負担軽減を常に主張し
亦公言されておりました現に昭和四十年年度におき
て二百八十五万余の需要費等大巾に増額されてお
りますからそれにも不拘その効果は充分あつてゐると思
はれないさうに需要費に於て流用や不要額があつて
居りこれは本来の目的から逸脱する処置置といはな
ければならぬので当局に於ては増額の趣旨を併し

学校並にP.T.A.に打する指導を充分徹底しその効果かあかよう努力されたとの意見が強く打ち出されました。

亦衛生費中に他に流用しその後予備費を当てその結果不要額をふくめる事案がありました。

勿論予算の執行にあり流用並に予備費充ては認められて居る処で何等違法ではありませんかその執行にあり見透しの点において適確を欠いたものであり

遺憾とする処で今後充分注意すべきものであるとの意見が強く打ち出されました。

し尿処理場につきまして建設以来多額の至費を投入して居るにもかかわらず現在尚完全なる操業が出来ない状態にあることはまことに遺憾でありこの

問題解決は一にかかって水の関係即流水の利用に

かかっていると考えられるので本問題の根本的対策を
早急に對して市長の政治力を最大限に發揮し一日も
早く処理場の円満なる運営が出来る様努力さるべき
であるとの意見が強く打出されました。亦処理場の
敷地問題に關して早急に解決すべきであるとして委員会と
して強く論議され主張されまいに其結果本件は当局の
努力と地主の協力により円満に話合ひ成立し解決を
みることになりました。

皆様御承知のとおり四十一年度補正予算に於て
買収費の一部が計上されました。

本件は一に本委員会の効果が現われたものと信じますと
共に委員各位の努力に深甚なる敬意を表するもので
あります。

次に先程申した要望事項につき即報告申し

とゞきます。

一、本決算書の提出に当り市長は市民負担の軽減に意を用いたと強調されたがこの点に關しましては

教育費で中・小学校の父兄負担軽減分二百八十五万余
中学校体育大会負担金十萬 農林水産費に於て土地
改良費金に伴う利子補給金十一万余 農業構造
改善事業に三百六十萬 漁港改築工業関係の地元
負担金率の引下げ 商工費で中・企業予託融資に
三百萬の増額等されて居りこの点一応当局の誠意と
努力を認めるものであります。

今後市民生活の向上福祉の増大により効率的な
予算の執行を要望いたしました。

二、行政運営の適正化、事務処理の近代化に力を注いだ
との事でありますか。当市は市長の勇断によりいつ

早く事務機構の全面改革に踏み切りまして、この点敬
意を表するものであります。が現在運営の面におきまし
ていろいろ問題点が残されており、当局に於ては事務
改善に於て再検討を加え改めべきは改め、市民のため
円滑なる行政が行われる様一段と努力するよう要望
いたしまして。

三、土木費につきまして市長のいう交通問題、観光開
発等、市勢の発展に特に大きな影響を及ぼす道
路行政につきましてはいまざれ予算でなく、基幹的計画を
立案して執行していただくよう要望いたしました。

四、城山公園につきまして特に現地調査をいたしました。
結果痛切に感じられることは施設設備の充実、順調に
行われており、市民の憩いの場、観光施設の一つとして貢献
するところ大であります。がその管理の面、に於て特に

夜間におきまする施設の管理については野ばしの状態であり
この点について早急に検討を加え管理に遺憾のないよう
万全な処置を講ずるよう強く要望いたしました。

五、歳入の増大は市勢発展に直接つながる大きな課題であり
歳入確保に付する市当局の御努力は多とするもので
ござります。然し入りの面について更に検討を要するもの
があり、具体的事例として医療センター、国民休暇村
西岬荘に付する固定資産税の減免措置についてご
あります。が、勘くとも市民の義務である納税の完全を
期する観点から一般市民の納税意欲にも大きく影響
を及ぼす問題であると思ふされるので、この減免措置の
根拠について明確にし、さらに今後出来るだけ早く入
増大のための善処されいと要望いたしました。

六、決算審査に当り特に不便を生じた事は予算書と決算

書との各種団体の名称に相違あり亦順位不統一があり
今後その年度の決算書作成に當て予算書と統一する
よう要望いたしました。

灯し市長職務代理士助役より委員会の意見並に要
望に灯しその趣旨を体し予算の執行に當り万全を期する
と共に御指摘の点について責任をもちて実行する旨の表
明がありました。

以上が本決算書に灯する委員会の審議の過程に於ける
特に論議されました主なる点並に要望であります。

尚お手許に配布いたしました資料の内「決算額による入
入の動向」は市長の市政方針にありました三本の柱即ち
産業の振興教育施設の整備拡充と内容の充実観光
施設の整備という指標に灯し決算に於てどのようになら
れたかという点で求めたものであります。

「義務教育内容の動向」は報告にも申しこぎましたか
P. T. A. 委員の軽減についてのものがあります。

「普通消防車購入状況調」は現地視察を行った際
館山分遣所と藤原消防団の自動車と四丁年度に購入
いたしたものを二小に割くこの資料でございます。

尚現地調査をいたしましまた個所も一応参考のためプリン
トいたしまし配布いたしましたわけでござりますので御参照
願いたいと存じます。

尚本決算書中一ヶ所誤謬がございましてので御訂正
願います。

五七頁畜産業費中役務費備考欄中「豚コレラ予
防注射手数料」とありますので「豚コレラ等」と訂正して
いただきます。

その他各決算には何等訂教的に異状ありませんでした。

以上をもちまして、委員会におきます審査の概要を申し
上丁たのですが、本委員会といたしましては、決算審査意見
書にも指摘されております通り、本決算書を統体的に見ま
すと各種事業は予算議決の趣旨にそって、おおむねその目的
を達し得たことを認めるものであります。地方自治体の事務
並に事業は時代の進展とともにあります。また複雑多岐をさ
め加えて、市民福祉のための各種事業が山積している現在、市
当局におかれましては、今後財源確保に強力な施策を講
じられ、合せて経費の節約、予算の合理的執行により、市財
政の健全を期し、もって市民福祉の増進をはかられたことを
強く要望いたします。

以上本委員会は附託をうけました認定第一号乃至第八号
昭和四十年年度決算に對し、その正確なることを認め、これを認定
することに決定いたしました。ここに決算審査特別委員会における

審議の概要についで御報告申し上げた次第でございます。どうか
満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。終り甚だ
失礼であります。が本委員会は四日間という長期の審議となりその間
委員各位には熱意をもちて審議に当り果剣なる討議が行
われましてその御努力と御協力に付しまして委員長として深甚
なる敬意を表しますと共に、お助役以下各課長をはじめ関係
職員の御協力と御労苦に付しまして深く敬意と感謝の意を表し
終りと致します。（拍手）

議長（田中禄郎君）

ただいま委員長報告によりますと決算書に脱字があり、それの印刷
の誤まりということで委員長報告の通りこれを訂正されたという
こととあります。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（田中祿郎君）

異議なしと認めます。よつて脱字は訂正されました。

委員長報告を終ります。本報告書について質疑かございますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（田中祿郎君）

質疑を終ります。

おはかりいたします。認定第一号乃至第八号は討論省略一括採決
いたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（田中祿郎君）

異議なしと認めます。よつてこれより採決いたします。

認定第一号乃至第八号 昭和四十年一般会計並びに特別会計
決算書は決算審査特別委員会委員長報告の通り可なりと
認定と決しますことに御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(田中裸郎君)

異議なしと認めます。よって認定と決しました。

なおこの際、市当局に申し立てます。

たゞいまの委員長報告にありました要望事項の諸点については、今後の予算執行並びに行政執行に当り、十分検討され、万遺憾のないよう期をみます。

日程第二、保育園の事務の調査の件を議題といたします。

本件につきましては、三月十四日の本会議において、文教民主常任委員会に付託されたものであり、よってこれから特別委員会における調査の経過並びに結果について、委員長の報告を求めます。

一六番議員 関武夫君

(一六番議員 登壇) (拍手)

〇一六番(関武夫君)

去る三月十四日の本会議におきまして私ども文教民生委員会に付託となりました保赤月園の事務の調査について三月十四日二十日の両日委員会を招集いたしました。慎重に調査を行なうまいと。

先ず十四日本会議終了後さうに委員会を開きまして調査の方法等につき協議いたしました。その結果市当局に打しまして三桌について調査し合せてその結果報告資料の提出方をお願いすることいたしました。

これにつきまゝては法の精神に従ひまして議長より公文書をもつて要求の手続きをとつたわけであり、尚要求により資料はそれぞれ皆様の手元に配布の通りであります。

要求したオ一桌としまして豊房保育園におき、今回の問題に關する調査並ひに結果について

オ二桌としましては定員外児童の経理及び帳簿について

オ三桌は昭和四十一年度における措置費と措置児童について

ありまして

委員会としましては、本資料の提出をまゝ、二十日に委員会を開き、報告資料に基いて慎重なる調査を行なつた次第でございます。以下委員会におきます調査の経過等その大要を御報告申し上げます。

才一氏の調査の経過及び結果につきましてござりまするか、本件につきましてば、本会議の所見、大體質疑は尽されておたうござりまするか、委員会としましては、この点に最も重点をおき、付託の趣旨を体しまして、調査いたしましたわけでございます。

提出された資料に対する質疑より入つたものでありますが、先ず昨年四月当初からの欠席児童は一日一五人ということでございますか。この点に對しまして、多くも三人の長欠児童がいることが調査により判明している以上、一日平均三人以上の欠席児童かなければおかしいと思ふが、この点一五人算出の根拠は、つゞいて質しましたところ、問題の

三人が長欠してゐる事實は各家庭を個別に訪問してはじめて
わかつたことでありまして、出席法とはこの三人は全部出席に
なつており出席法により算出した關係上一五人という数字が出
たものであるとのことでありました。

次に出席法及び保育料徴収法についてございますか本調査に
當り實際に關係帳簿を調べたかとの間に訂しましてこれらの
帳簿につきまゝでは實際に見た上で調査したその結果出席
法には、この三人は出席しておりそれを捺印されて
ありまして、なお保育料徴収法につきまゝではおのおの父兄より
保育料が納入されてゐるよう記載されておられたとの回答が
ありました。

次に私的契約現についてございますかこの点につきまゝでは十
六名の定員外の私的契約児童がおりこれに訂する保育料は
才入法にも現金出席法にも計上されておらずそれ以外の帳簿

については今回の調査では提出されなかったことでありました。

この私的契約児童の保育料については千三百円から二千円までであるとの報告を受けましたわけでありますがこれに関連いたしまして私的契約児童の保育料が全然不入りされなくしかも保育料は措置費の半分以上満たないものであり至急は六十名分の措置費により行われているという調査資料から判断するならば六十名の措置費が六十名の定員外の私的契約児童のために保育費給食費等について犠牲をばらけていると考えられるが質問に対し私的契約児童について定員内においてのみ余裕があるときは国長で出来あすか定員外については契約してはいけないうことになっております。しかもその保育料については父兄負担額の最高額の最高額すなわち四千四百九十円の措置費に相当する額を全収しなければならぬことになっておるしかし現実には定員外私的契約児童でありなお保育料もはるかに低い

ものが徴収されている。そのに調査の段階では不入茲にも現金出納簿にもこの保育料が全然不入されたりないという状況から考へれば措置費でもって定員外の私的契約児童の命を賄はつてゐるといふなければならぬ。従つて措置費が犠牲をばらうてゐることゝ解釈できる。なおこの定員外私的契約児童の問題につては市といたしましてはいいけないと指導はしてゐるか。渠の段階において強くやつてゐるはなければ市だけの指示ではなくすることはむづかしいと考へてゐる。と白答并がありまいた。しかうばふ、十人の措置費で十六人の私的契約児童の命まで賄ふたとすれば措置費が不当に使用されたことになり従つて不当に使用されたものにつきましては当然返還させるべきであると思ふ。この点に對する考へにつてとの質問に對し現段階におきましては十六人の私的契約児童について使用された措置費は十三万七千八百四十六円という数字が出ており、

この金額はまた決算が終つていないので三月決算が終つた時
点におきましてさうに調査して措置児童方が使はれていた場
合にはその相当分を市に返還させるとの答弁がござりました。

次に老間聞くとさうにございますと一部において今回の問題に
つて市当局は前々から知っておりながら指摘出来ないので
恥負ひからんでおるのだということを身にするので市当局の種
威保研のためにもはっきりと信念をお示し願ひたいとの質問
に對し 今回の事件に對して見て見ぬふりをしたり国と
行じ行動を取ったということは絶対にないとの力強い表明が
なされました。

市当局におきましては今回の問題を契機に十分反省し
さらに今后市当局より保育園に對する監督権指導
権の明確化と在籍児童の確認を期する為に本来の姿であり
ます父兄より市長に對しての措置の申請 長期欠席 退所

の申出等につきまして父兄から直接市に連絡するようピー
アールし又保育料の徴収につきとも直接市から行う等、これらに
ついても検討していきたい旨の決定が表明されました。

本委員会といたしましては、特に問題となりまい。又豊房保育
園の件に関しましては、委員会の審議の過程或は提出され
まい。又調査報告書等から保育園の運営について指摘され
た問題は、是はおおむね計画的に行われておたように考え
られるのでございませう。この点、市当局より表明のありました
通り、保育園に付しましては監督ならびに指導権を
明確にすると共に、住民の生活に直結するところの福祉事
業なからず、児童の育成にありませう。保育園運営にあつ
ては常に奉仕の心をもち、運営し、至當責任者の道義心に
まっとうに他ないことを認めざるを得なかつたのでありませう。

今后市当局は勿論のこと、その道にならずとわる者におきまし

ては常に法の精神にのっとり健全なる運営と児童福祉の
向上に努められるよう強く要望いたした次第でございます。

以上本委員会におきます審査の経過並びに概要についてご
報告申し上げます。

よろしく御了承の程をお願い申し上げます。

なお本委員長報告を議会に御了承いただきまうばのちば
とこれをプリントにて皆さまのお手元に配付いたしと考へており
ます。

議長（田中祿郎君）

以上で委員長報告を終ります。

本報告について御質疑はございませんか。

○二二番（君塚喜三君）

文教民生委員諸兄の劣は多とするも遺憾ながらたゞいまの
報告からして重大な調査漏れがあることを指摘せざるを得ない。

従つて議会はすみやかに議会議規則第四十六條についてこの事件について文教民生委員会あるいは他の委員会に再付託せられんことを望みます。

以下その理由を申し述べます。

四十一年度から保育料の徴収についての納入告知書作成事務が市民課に移管せられ従つてそのカードが市民課にあるわけですがそのカードの係員の言葉によりますると四十一年度当初からナンバー六を指示によつて除いたとつておるものと他にもナンバー五九、ナニバー六〇の二つあったカードも除かれておりますがそれは別でございませう。このカードは一貫したカードナンバーの中にあることまた保育料がナンバー六は千三百五十円と設定記入されてゐることから見ましても所管課におけるところのその作成原簿にはこのカードの名があつたはずである。入所申請書が保護者からあされたものなりのに保育料を市に設定を行はうはずか

ないからであります。

ただいまも申し上げましたようにカードの取り者は私からの問い答えて四十一年度当初から指示によつて除いたといつておる。その通りだとすればその理由は何によるのかその際の原因簿を見る必要があるかと思ひます。

私がさういふことをなぜ申し上げるかといひますとあとで申します。がこのテンバー六について不正事實は歴然たることあると。いうことをいふなければならぬことを残念に思う。なお原簿を見る必要があると思ひますのでこの提出方をお願いしたい。なおその理由は一体どこにあるのかもお聞きいたしたい。

テンバー六については不正の事實がある。歴然たるものがあるわけであり、これをいふなければならぬことを残念に思うけれども。しかし前年度において四十一年度の決算の締め切りはまた。といふするけれどもこれは前年度においてそのような事實がある。

すなわち西長田の二十番地鈴木義雄さんの孫父親は鈴木さん母親は幸子さんその次男で芳行ちゃん昭和三十四年四月二十五日生れでこれにつきまゝて実はこういうことかかれておる。

この事実を申し述べて質疑疑にかえます。

一昨年十二月昭和四十一年度の四月頃園長さんがきて定員に足らないので足らないと許可にはならないので名前を貸してほしいといった。たった一つしかない保育園がなくなってしまうのは困ると思つたから名前を貸した。印を貸した。その後におきまゝて四十一年度の四月頃定員が足りないのでありがとうございませうとお礼にきた。このようにそういう事実があるということをこの文教民生委員会において調査されたかどうかこれは私は一昨日確認したものである。もし私の言葉に疑いがあるならば再付託を受けた委員会は全議規則第七十二条に基いて承認くゝて鈴木さんの出頭を求めその真偽をたゞたき方かいいんではないか。このように考えますか。

これに付しまして委員長ほどのように考えるか私は御質問中
し上ります。

ロー番（関武夫君）

文教民生委員会は三月十四日の本会議におきまして地方自治法
第九十八条によりて調査の付託を受けられたわけであります。

そこで九十八条をよく見ますと執行部に付して調査をさせて
その報告を求めてそれを検討する。こういう権限が与えられて
おるわけでございましてその法の精神によつて私どもは調査をいたし
たわけでございまして以上です。

議長（田中祿郎君）

申し上りまするが委員報告に付しましての御質疑を願ひたいと
思ひます。

暫時休憩いたします。

午前十一時

休憩

午後一時七分

再開

議長（田中祿郎君）

午後の出席議員数二十一名

休憩前に引き続き会議を開きます。

委員長報告につきまゝ御質疑ございませんか。

——なしと認めます。

質疑を打ち切ります。よつて保育園の事務の調査の件を終ります。

日程第三 議案第三号乃至第九号 昭和四十二年 一般会計並びに特別会計予算案を括して議題といたします。

おほかりいたします。ただいま議題となりまゝ、議案中第三号の一般会計予算を歳入と歳入に区分します。歳入の部より行ないまして次に歳入の部特別会計は各会計ごとにより程するとう議事の進行方法といたしたいと思います。

これに御異議ありませうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり。)

議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よって決しました。

これより議案第三号「一般会計予算の歳入の部より質疑
と行ないます。なお発言の折はページをお示しくたさるようお願いいた
します。

○二二番(君塚喜三君)

三款民生費の目児童措置費に関連をいたしまして御質問
いたします。先ほどの質問に関連を持つわけでござりまするがまずお
たずねいたしたいことはカードのナンバーには一貫したカードナンバーの
中からナンバー六、ナンバー五九、六〇というカードが四十一年度当
初に指示によって振きまされたということかかわれておる。このカードと
いうものは保育料の告知書作成の原簿ともなるものであります。

そういうものが四十一年度当初に振られたというのとつりて理由はどういうところにあるかをまず知りたい。なおその際の名簿には三つのカードの名簿者が私のはのつておいたものだと考える。のりもいはいすなわち入所希望とつりてはその申請書が出されるわけでございます。

アムバー六については一、三百五十円C二という保育料が記載されておりアムバー五、六にはそれぞれ三千というよう保育料まで設定されておる。これが今いた通り一負番号の中から取り除かれておる従つてそういうものが申請書が出てそれに對して調査をして保育料というものは設定されるはずだ。そういうものがなくてあのようないドかできるはずはない。まずその点の御説明をいただきたい。

どのような理由によつてあのカードを当初に振ったか、できればその際の名簿を見せたい。

原簿の中にもその名がのつておるかどうかに点検をまずお尋ねいたします。

福祉事務所長（鶴沢寛覚君）

お答え申しにじます。ただいまの御質問でござりますか。ナンバー六、これは先ほどおっしゃった通り鈴木八くんが保護者でござりますか。昭和四十年の五月一日に入所申請が出ております。従いまして四十一年度はそのまま継続されておりますので入所申請は取っております。せん。そういうことで継続の場合には改めて入所申請は取っておらないというところでござります。四十二年四月三十日に退所届が出てゐるわけではござります。退所いたしました。私の方から市民課の方に連絡いたしました。保育カードは落とすわけではござります。そういう関係で市民課の方ではそのカードはないことになっております。そういう関係で落とされているわけではござります。五九、六〇、も同じでござります。

〇二三番（君塚善三君）

不可解な御答弁を伺うわけですが、そうするとナンバー六番ですが、四十一年度当初にて申請書が提出されておる。従つてその申請書に基いて所管課では調査なさたはずであります。その後四月と九月ですが二度

監査とうものかなされなければならぬことに市の条例ではなっておりますが、
そういうことがなされておりますか。なお今いたナンバー五九、そのラッソも
同じであるとおっしゃるけれど、ナンバー五九、これは大戸百八十
九番地、佐野良治さんの娘さんで、美智代さん。この人につきましては現
在もいっております。カードははずされなければも現在もいっております。
同じ番号はもう一つ成り立ちますか。調査をなさつてないのであるが、
いまだんか。

の福祉事務所長（鶴沢貫覚君）

同じということは退所が同じというところでございまして、現在もおります
のは私的契約としてきております。

タニニ番（君塚喜三君）

細かい質問で申し分ないと思いますが、さうしますと、当人から弁明が
ありまた御報告の中にもありまして、ようにナンバー五九、大戸の
佐野美智代さんは私的契約である中に入っておりますこと

でございますか。私的契約の名簿があなたの方にありますか。
あるとすれば、これを示しなさいとされるわけですが。

私はないと思っておりますが、私的契約ということかあなたにどうして
わかるか、その点を。

○福祉事務所長（鶴沢貞寛君）

私的契約見下ろしと云うことが先ほど来、委員長から御報
告がありまして、通し、今回の調査で名簿は取っておりま
す。その中に佐野さんが入っております。

○二三番（岩塚喜三君）

そうすると西長田の二七番地、下ろしの問題ですが、これは
先ほども申し上げましたように、四十年度当初に国長さまで
定員六十名に満たないと許可になりませんから、名前を貸して
ほしいといわれた、下ろした、つかない保育園が閉鎖されては下へん
だと思つて、私は名前を貸して印を押した。ところが四十一年度当初

になつて今年は定員に足りまいたからお借りしておきました。けれども済みまいたからありますかとうございますというお礼にきた。こつおとといの午後当人のお言葉です。そうしてはおかつ四十一年度の当初のカードにその名前がのつておりあとかうこれを取り陳いふという理由がわからぬ。その点重ねてお伺ひいたします。

の福祉事務所長（鶴沢貴寛君）

お答えいたします。先ほど申し上げましたようにナンバー六の鈴木さんの場合でございます。が四十一年度の四月三日で退所しておりますので結局カードとくは四十一一年四月にはのつておたわけでございますけれども退所届が出たために消したという事でござります。

それから先ほど定員に満たないと許可にならぬという事を。おしやまいたけれどもそういうことはございせん。

のニニ番（君塚喜三君）

それは何からこれを取り上げておる。何こうではだまされたとい
つて憤慨しておる。ところが事實は四丁年度はその子供は一度も
きておりません。名前を貸してくれといわれただけから事情に同
情してよろしくご愛います。という答弁をいたすというんです。
それは何こうも認めております。

実情調査がなされその後も監査が二回もなされておつて全然
それがわからなかった。しかも会計監査を待つというの合同調査に
よつてどうしてこういうことがわからなかったかふしぎに思う。この桌所
管課長はどうお考えになりますか。またこのほかにもあるというよう
なこともいわれております。これは大きな問題だろうと思う。私はどう
も先ほどからいっております。ようにカードの処理の仕方といふ何だか
あなただけがこの事件を四丁年度だけにこぼつておとになつて戻入す
ればいいのではなかつたかという形におつてうやむやのうちにぼうむりなう
としてゐる疑いを持たざるを得ないのだ。もしそうだとするならば

重大な問題だ。それは御当人に付するお気持はわからぬもない。われわれも先輩議員の身にいかかわる問題でこういうことをいふくない。しかし議会には新聞に報道され議会に取り上げられた以上市民の納得のつくまで取り下げてこれを徹底的に調査しなければならぬ問題だと私は考える。あとになって新事実が出てきたら議会の面目丸つぶれだろう。その点なせもう少し協力できぬか。あなたに先ほどの報告書によるとそういうことは一切ありません。はっきりしたことをいっていらっしゃいます。事実あるではございませんかとにかく議会には関係機関の会計監査権がないというのとあれ以上どうにもならぬというところまでございませうか。それまたこの果につけては何らの対策が取られなければ市民も納得すまいと思う。この点について再度私はあなたに御質問する人ですがそういう事実がないとお認めになりますか。重ねておうかがいいたします。

今回の事件は私たちは特殊の例だというふうな考えであるわけでございます。調査するにありましては四十一年度二月に在籍してゐた家庭の訪問調査をやつたわけでございます。四十一年度にそういうことがあるという事は予想してありませんので、そこで調査はしてあります。四十一年度に限らず家庭訪問して調査したわけでございますので、そういう事実があつたとすれば、その点までばかりはなかつたというわけでございます。

〇ニニ番（君塚喜三君）

ではその調査は県、市の合同調査にのりてなされたと思うんですが、そういうことに理解してよろしうございますか。

〇福祉事務所長（鶴沢貞覚君）

調査の段階でございますけれども、これは県と市と一諸にいつたわけでございますけれども、家庭訪問につきましては市独自でやりました。果の方はタッチされません。

・二二番（君塚喜三君）

家庭訪問の結果はどうかです。あなた方が家庭訪問なされてその結果を三ごお聞きいたしましう。

・福祉事務所長（鶴沢貴覚君）

家庭訪問の結果は先ほど文教民生委員長から報告のあった通り長期に欠席しているということが三人わかったわけでございます。

・二二番（君塚喜三君）

ただいまの御答弁で四十一年度に限ってやったのだということでございます。いするが四十一年度にはこういう重大な問題がある。それならば四十一年度にさかたって監査家庭訪問することが私はできらと思うんですがそれはできませんか。その点お伺いいたします。

・福祉事務所長（鶴沢貴覚君）

四十一年度におきましてはもう決算も終っておりましてございまして調査するということは困難ではなかというふうに考えております。

〇二二番（君塚喜三君）

ほかうすも今回不正事実がでてきたわけなんです。それが四下年度三十九年度にさか上ったというこゝについてはどうにもならぬ、また措置費の国が八割、果、市が一割として市の予算の中から出されておるといふ中におつて会計監査する権限も何もないのだ、そうしますとこの問題は市民の納得のいくような結論がふせぬ、というこゝになりますがこの点について市長代理さんどのようにお考えになりますかお尋ねいたします。

〇市長職務代理者助役（小出武男君）

今回の問題につきましてまだ最終的にまつまりた面が出ていない一面があるようにございます。この点につきましては皆さんを中心としていろいろ法規関係の研究もいたしてつ監査権の問題指導権の問題といたして相当研究されましてが市が一割の経費を支出しているものでその分についての監査権というこゝは一応理論上からいけば考えられることになつております。ただ機関委任事務につきまして果が監査権を持つて

おりまゝので果の監査かつ分であればそういうことはなけりであると思ふわけでございます。先般の調査委員会にも私から考え方を申し上げておきましてが監査権と指導権とのマッチがうまくできておらない。そういうところに今度のようは問題があてきておるわけでございますので今後の問題としては果と市がよく監査権 指導権の限界を調整してその間から漏れないような指導をしていかねければならぬ。こういうことを申し上げたわけでございますがただこれは今後の問題であつて今の問題をくからばどうするかというところでございますがこれを不正に使用したとかいうような問題にはなりませんと行政指導の範ちゅうからあるんではいかという気がします。

根本的にはこういう事業は相互の信頼と理解の上に立つてやる社会奉仕事業でございますのでそういうことは全然自治体としては予想してはいないわけですね。しかしたまたまそういう事態があつたという現実からいふればこれは相當社会的にも究明されるべき問題であつて

それを今前年度さらに前々年度どうあったかということは行政指導面からそこまで追求するということはどうも適当ではないように考えられ、従いまして今問題になっております点は今後の問題としてそういうことのなによりに指導、調整をはかっていくということに最善の努力をいたす方が適正ではないか、行政面から判断すればこういう考えを持つわけでございます。

〇二二番（君塚喜三君）

どうも私といたしましてはまだすつきりいたしません。

今後においてそういうことのなによりに行政指導をいたしますという
ことについて過去行政指導の欠陥というものがそれで補われていく
というものでは私はないと思ひます。とにかく私が前にもいった通り当人
に乞つて確認しておるのだから間違はない。だから証人喚問の出
頭を求めたお尋ねやうでなければならぬ。これは議会には証
人喚問をする権限がないといつていらつしやいます。いらつしやいますので

研究にとめておきますが、そういう不正事実があることは事実だ、
 いうて、このだ。それも本人から保育料を取ることできませんから、
 それをたてかえ払いをして、たとしておる。そうして措置費をもう、てその
 差額だけを自分のぽっぽに入れておる。そして措置費を
ゆ、ゆ、この二つだけ取って見ても、これはゆ、ゆ、問題だ。

相互信頼の上に立つてということを裏切つたということはより以上の大きな責任があると私は考えるその意味においてさうに今後市民の納得のいくような徹底した掘り下げ調査をなされることを望みまして私のこの問題に打ち切る切りたいと思ひます。

○三番（小柴孝君）

私は三桌についてお伺いしたいと思ひます。

七ページの小規模草地改良事業委託料　これは九重・豊
房と出ており、まずが百十七万というふうに分り、出て、されて、いなか

もう少し具体的に御説明願いたい。これが一点

七四パーセント二十六万の松食、虫の防除費が出ておりますが毎年毎年この防除をやっておりますが現在被害木が相当ある。既に委託料とか補助金を計上するだけでなく、実態がつかまれているかどうかという問題はなかなかむずかしいと思います。この見解について伺いたします。

次に消防の問題でございますが、竹原の方でユスコット並に可搬車を買って新しい消防の施設を実施してあるわけでございませうか。この問題については別に異議を申し上げませんが、問題はもう少し根本的になりまして、竹原の区でもって三十五万位の経費がかかる。これを地元でもって寄付するということになると、大へな問題で三千円からの寄付が戸別に割り当てられる。というところで、この問題に、そして非常に地区民は問題を起こしているわけでございませう。

というのは、竹原部落だけで負担していくという問題があるわけ

けでもう少し組織の面をほつきりさくいたしたい。

組織と云うのは九重には現在公設が三つあります。

一つはリヤカー運搬のユスコト、一つはもうすでに十年前前から使つて

おります。三輪車、今度新しく竹原の方で新しいのを予算に盛つて

もらつたわけですが、後援するところの区域そのものがすつきりて

りなつたわけですが、いわゆる中央にある三輪は九重全地域でもつて

やつてゐる。宝見にあるのはリヤカーで何とか自動車にしたいけれども二万

円二万円という寄付は入へんという事でこれも自動車になうない。

竹原の方は竹原自体で戸別三千円位の寄付をしてという事で

問題があるんですが部落によつては全然関係のない部落がござります。

二百五十円の消防費を納めておりませんがそれだけでこと足りるとう

考えを持つてゐる部落もある。一方で三千円の寄付を出して何

とか整備しよう。片方では二百五十円出してあげたいというところと

問題点があるわけですが、この点を組織上すつきりた線にしてもう

えないかという根本的な問題とそれからもう一つ地区民の声の中に
錦野の方では稍しか公設消防はない。その他は今まであっただけ
でも消防署が近いので廃止した。九重の方も農村でございまして
いよいよ火事が起さうなという場合に作業にふっているとこの消防が集ま
つてきて出動するには丁分や十局かかる。ところがこれが山や田んぼに
いておる場合にはなかなか簡単にできない。市の方に連絡すれば消
防自動車が出てくるというところであればあえて三千円、四千円かけて
地元の消防はいらないのではなかという考え方を持っておる地区民が
相当あるわけでもございましてこういう面について消防署の方で次長さん
消防長さんとは御見解を持っておりますかお伺いいたします。

○農林水産課長（伊藤幸太郎君）

まず小規模草地の改良事業でございしますが予定しておりますのは
九重地区におきまして約四ヘクタール農房地区におきまして四ヘクタールを
予定しているわけでもございします。百十七万三千円の委託料でございしますが

この範囲内で千葉県の農地開発公社に委託いたしまして実施いたしたという計画でございます。

次の松食でございますが、二、三年来この程度の事業費を組みまして毎年順次予防対策をしております。昨年あたりを見ますと、とりあえず公共用地的部面あるいは海岸砂防の部面に重点を置いて実施しております。一般の山林につきましては順次やっておりますというところでございます。

○消防本部次長（石渡東君）

地元寄付金の不均一と申しますか、これはその通りだと思います。

しかしながら、私はその当時計画しておりますんでしたけれども、

こことここを公設の地区にし、ここは自警団でやっていくのだというのが当時の責任ある会合で指定がなされておるといふうに聞き及んでおります。しかし、その当時公設にしてよろしいというところにつまりましては、労力的、金銭的負担を引き受けたというところを

見てそういう地区割が出来たというふうに解釈しております。

一例を申上げますと豊房地区にも自警団と公設は入りやだれておりまして、おニッポの整備等につきましては多額の金がかかるので一部落にそれを持たせるといふことはかわいそうだといふことで村も上げて後援会の組織が結成されております。できればこういうふうに運んで、ともども後援に参加するように希望いたします。

本部側としてはそういうふうには指示できませんので、できればそういうふうに進めていただくのが結構だと思っております。

それから館野地区は公設が一つもない。事実でございすが、工事になれば消防署がきて全部やってもらえるのだといふことでございすが、現在の消防署は国の示す基準の五〇％しか人員がおりません。基準に達しておりませんので大風ときあるいは山火事るときにとうてい現在の常備の人員をもっていつてもいいという自信がございまして、そこでできれば公設に参加するように私の方ではお願い

いておるような状況でございます。

三番
〇（小柴孝君）

小規模草地の問題でございますが場所と地元の了解ができておるか九重地区四ヘクタールというところか二カ所か三カ所かという地元の連絡ができておりますか。

それから松食でございますが現在残れておる松を処理するだけでそれから先に延びていくのは松食の虫にまかせておるのだというところでございますか。この点について。消防の問題でございますが地元でやってくれという。ここに問題がある。

公設を置くからという。その結論そのものを地元民が知るのはのが現状です。やはりですむのであれば作る必要はないのではなかつたかという問題が起きてくるわけでございます。この奥市の方でお骨折りの頼みの方がすっきりするとう考え方ができ。

三と三の部落は このコストをやってくれ あるいは中部のところはこの

三輪車をめんどろ見てもううのたという地区の責任。そういうことを
ほうきりしていただければ竹原の人たちがいう不平、不満がふないわけだ
ございませうが、かく立派な公設の消防であつても金を出すということば
はさといろいろめんどろな問題が起きてきて以上のやうな結果になつて
いるわけだ。ございませうが、ございませう。たう戸個三千円、五千円の負担を
かけないやうにしなければならぬと思ひますが、新しくございませう人ですから
三分の一地元で持つのは覚悟してございませうが不平、不満をなくして
やつてもういたいというのか、地区民の要望でございませう。ですからもう
いふものを市でやる考えがございませうか。

地元にかかればはしですか、その上を以て。

○農林水産課長（伊藤幸太郎君）

小規模草地の方は現在のところ豊後地区一カ所、九重地区一カ所、
大分や場所土地にございませう。やや了解済みでございませう。お名前等
の発表はさしつかえてございませうが、目下準備中でございませうので御了

承願いたしたいと思います。次の松食いの問題でございますが今の段階におきましては被害を受けたい木を代採しまして葉品をかけて処理するとう程度にとどまっております。事前になの駆除についての有知な葉品等が目下のところできていないようでございます。被害の木の代採を中心によつておる次第でございます。

○消防本部次長（石渡 東君）

法律の原則からいまして消防全般にかかる経費は市が全額負担していただくのが当然でございますが財政難から地元の方に御寄付をいただくという事になっております。私の方から出ていく地区の皆さんを集めて後援会を組織してというところまでには市からはいきかねるようには思います。

○市長職務代理者助役（小玉武男君）

実情を伺いますと寄付などをする場合に出てきような問題だと思ひますが行政的にやることは困難ですが裏で消防団の幹部と

地元の人とそういうことの面でもう少し裏工作で話して見たい
というふうに考えます。

○三番（小柴孝君）

松食、虫、草地の問題了解いたしますか。特に松食、虫の問題は
ふてもう少し先手を打ってやる方法はなにか。県の方でも多額の
金を使ってやっておりますので県の方にも連絡して根本的方法
はなにかということをお願いしたいと思ひます。

消防の問題ですが今のお話で市の方で手の打ちようがないのだ。
地元でうまくやってくれということですがたゞ当時組織ができた
ときには九重には公設を残すという状況が知られていない。地元民
にミニ問題がある、地元民が納得して了解ができておればいい
けれどもそのときの消防役員だけ知っておって地元民に知られて
ない。聞けておらない人が問題を起すわけではござりますので。私の
方としても市の方でできるのではなにかという考えを持ちましたので

質問したわけでございます。

一応先ほど今後関係者を集めてよく話し合つてということでございますのをご承知いたします。

〇二番（関武夫君）

三八ページ事務改善推進費についてお尋ねいたします。

九節研修旅費として二十万円計上されております。四十一年度も二十万であったように記憶しておりますが四十一年度どうう方面に研修にいったか、そうしてその結果どのように館山市に成果を取り入れることができたかそれから十八節備品購入の二百三十万円エスターの最終支払い金だという御説明でございそうですがこれに関連いたしましてエスターを入れてから事務改善の方でどのように効率的にこれが使われたかを具体的に御説明願いたいと思います。

第三点は事務改善に関連がありますのでお尋ねいたします。

税金の集合税制度というものを四十二年度に取り入れる御意だ
かおありになるか四十二年中に多分でも研究されたかどうかそう
いう点についてお答え願いたいと思います。

それから八ページ観光費でございますが十三節の委託料、このうち
民謡作成委託費二百万円計にされております。これはどのような
しく民謡作成の委託をなさるかその構想を承かりたいと思います。
以上です。

○人事課長（小沢正治君）

お答え申し上げます。事務改善の旅費でございますが、研修に関
しましては、当市も先進地のあり方技術的な面あるいはその他の面で
先進地の実態を把握してこちらに導入するという形はすでに経過
していろいろ考えており、従いまて現在の基本的な改善の中から
さらに鶴山市の市に市の規模、人口、その他の関係でこれにもとも
適応する独自の改善方式をどう確立していくかという段階にまで

おると考えます。そうした場合でそれらを進めていくための参考研究というところで考えておるわけでもございまして、先進地を見てそれを行うの参考にしたという形の研修ではなかと考えてこの間も米沢にいらつておられたわけでもございまして、そういうことでそれぞれの部門の係長級の人たちにそういった勉強をやっていただくことを考えておるわけでもございまして。

エスタの關係でもございまして、けれども実際にメーカーが宣伝したしまいた、実質上の食の進み、これがかなり出てきておるという実情がございまして、会社側がいうにはあの機械に従事する人員は五人あれば間に合うというところになっておりまして、実際行つて見ますと一五人では間に合わないというところか、いえると思ひます。

そこで機械の性能を会社側がらつておる段階にまで達させるためにはもう一人至一五人の追加が要求されるという形がおきておりまして、そういう關係から實際にわたる形より能力的に多少受け入れる

側として考えていかねばならぬという面があるようにござります。
それから税金の關係でござりますが、そこで私突込んで検討してお
りませんけれども、これは新しい形でもございましてすでに実施して
おられる町もあるわけでござります。かなり簡単な言い方をして一長一短がある
というところかと思ひます。

このシステムの中で一長一短があるものを短所もなくして長所だけが浮
び出るような形で果して実施できるかどうか、これは今後の課題で
あろうかと考えます。従前そういう形での研究につきましては検討され
たことはございせんけれども、先日の米沢の視察において、これもイ分々わし
と調査して参りまいしたので基礎として将来の課題とするというところで
ございます。

それから観光費におきまする民謡の委託費でござりますが、これは現
在、うな角度から検討しておるわけでござりますが、今までにコロンビアから
出た、鶴山の民謡として五種類ばかり出ております。かなりおかし

うい曲もあるわけでございますがやはり普及率かななか思いうように
 いかない、そこで何とかして作詞作曲を日本的な水準での有名な方へ
 お願ひして歌手も人気がある歌手を頼んで指導、発表会を開くと
 いう形でレコード会社に委託する場合どの位かかるかということ、概算
 検討を行なうわけでございますがそれいろいろやり方があるようで
 ございますがまず二百万あれば一流人の作詞・作曲家によって一流歌手
 の発表会まで行なわれるということ、ございましてその額を二百万という
 ことで考えておるわけでございます。現在どの所属のどれにどのよう
 に頼むというところまでいっておりません。予算が議決されたあかつきに
 そうしたことをやうていく方針で二百万計上されたからといって二百万
 で委託するということではございません。

極力節減して百五十万で終れば終らせたいと考えておりま。

○二番（関武夫君）

事務改善の方ですが先述地の事務改善等を取り入れてそれを

まわしていく段階ではもうない、館山市独自のものにしていき
たいのだ。この御趣旨とまことに結構だと思っています。

米沢にしても古河にしてもアンド方式を取り入れた直後とは
だいぶ様子がかわっているはずでございます。

館山もアンド方式を単に公約的に取り入れるだけでなくや
って見て必ず短所があるわけですからそういうところはその方式に
とらわれずにだんだん改善して館山方式を樹立していただきた
いものだと思います。それからエスターがメーカーのいうほど効率的で
はなかったということはじめて聞いて残念に思うわけですがもし
それが機械の取り扱いが不なれのためにまだ十分効力が発生で
きないという点であったら市の人にも一生懸命勉強してもらって
十分効率を発揮できるように御指導願いたい。
それから集合税の問題ですがこれは米沢にしても古河にしても
事務改善先進地では相当取り入れておるわけですよ。

米沢方式を見てきたそうですから、これを十分研究なさって取り入れられるものなら取り入れていただきたいと私は要望いたします。それから民謡の作成の問題ですが私もいろいろとごわのりません。水どもせっかく金をかけて作ったけれども一時はやってあとが続かないというのではまことに残念でございますので十分注意して本当に全国的に普及するような民謡をぜひ作っていただきたい。要望するわけでございます。

議長（田中祿郎君）

暫時休憩いたします。

午後二時十五分 休憩

午後二時三十五分 再開

議長（田中祿郎君）

三四番（山本昇君）

第一点は、議金費におきまして、昨年度の予算よりふえており

いろいろ議会側の良識あるこの態度に灯しきりて市長えほじめ執
 行部におきまゐるとのようになれを希望とのようにこの議会の気持を
 反映してこの四十二年度予算の面に現れたかということとを第一案に

基本的にお尋ねしたいのであります。

さらにまたこうして私ども議会のこの態度はひいては広域行政の面において十分發揮してもらいたい。かような考え方も十分織り込まれておったのでございませうが、この広域行政の面につきまゝ果してこの予算面についてそういうものか現われているか、歳入の面にそういうものか、もうも見当らぬという事でございませう。

この点につきましては考えを辛直に述べていただきたい。

さらに本間市長が長期間となえておりました、万都市建設というものも現実の面においてはきわめて実現困難である。かような観点から私はこの第一段階として、まして付近町村の合併ということを強く打ち出しましてそうすることによって、その第一歩を踏み出してもらう。いたゞ、かつて予算市会におきまして通告質問においても私はその点を主張した覚えがございませうが、その後市長さんが関係町村長さんとも話し合つて、一応の線を考へ、議会の全員協議会の

席上におきましても御報告がありました。これを推進したいと思う
のであらかじめ御了承したきたい。かようなお言葉のあったことを覚
ております。その後この問題に付します御報告が一ぺんもない。
新年度の予算においてそうしたこと含まれて組んでおるといふこ
全然見受けれないのでありますけれども、こうした案につきま
果して当局はどのように考えておるか、基本的な考え方に立ちま
助役さんから御答弁をお願いしたいと思ひます。

○市長職務代理者助役（小島武男君）

山本議員からの御質問でございすが、新年度から議員定数が
六人議会提案の形におきまして減員されたのでございすが、これは
皆さんの御意思の現われであつて私ども非常に感謝しておるわ
けでございします。

議会の熱意が広く市民にも影響しますし、また私ども市政を

担当してゐる面から申しまして、その氣勢が職員全体にも精神的に
影響してゐると思ひます。要するに私も今後さらに努力をして
いかねければならぬという感を深くしたわけでござります。なおこの
意向が予算面にどうかということでもござりますが、せめて申します
ならば減額されたその方はほかの事業に回わつても可うたという
ことがいえると思ひますがそれ以上に精神的な面が多少にあるわけで
ござります。直接全体の予算面には影響者がございせんが、一応報
酬において減額された方は資料センターに七丁万両房南中學校に
二百八十万という金を財源として回す余裕があつた。
それをそのまま回したということではございませんがそれらが決定さ
れた段階でこちらに回させていたいただけでござります。

さらに広域行政のお話しがございましたか、これは市長からも話したことが
ございましたか、付近の町村を合併して行政執行という面でもござります
ので、本年の当初にも御説明申し上げました通り、市が町村合併と

いうことを表面に打ち出すことばちうと遠慮すべきではないか。
送というならば近隣町村長が立候補している矢先のことば
遠慮すべきではないかということ。広域行政の推進に打つては
政治的にやめていくという考えでござります。

もちろん町村合併の問題は広域行政の一環として類似の
事業その他共通の作業を行なう面におきまして当然必要に
なってくる結果論としては相当効果ももたらされておるわけで
ござります。これを市が合併をするという表現はまずいのではない
か。いわゆる町等合併であつて吸収ではない。さういふならば果
中に入つて広域行政のためにどうだという措置を取ってくれること
が一番自治体としてはこのまゝの姿であるわけでござります。でこれ
で広域行政協議会というのを作りまして三ブロックこれをや
つておりますが。たまたま錦山が抜けておるという事。態が昨年度
あつたので私も地方課長に会いまして私どもの考えの広域行

政に水が入るではなしかということをし入れまして善処を要望したこともございます。

そのときの地方課長の考えとしては指導面は十分考えてやるからという話しがございましてきておるわけでございます。

その後市長が一回トップ会議をやりまして話し合いました結果非常にこれに同調いたしまして研究しようということで第一回の会合は分れておるわけでございます。その後具体的に進んでおりませんけれども近隣の市民の話しをばうばう聞くところによりましておそれなくこの次あたりはそういうムードになるのではなしかそういう気が持がいたしますので市としては今申しましたように政治的にこれを対等に一緒になる。こういう線でお願をいたしていきたいということも考えておるわけでございます。

従いましき予算面には計数的には出ておりませんが今申しますようなことで今後一年間あるいは二年間すくとも三年目には

というふうに私は考えておりますが皆さんの御趣旨も了解できますのでよく市長とまた相談しあと来年度あたりから猛烈に政治工作をしていきたい

さらに具体的に仕事との関係におきましてもすでに三芳富浦とは水道事業を広域行政としてやっておりますしさらに自衛隊あたりでもここに申し上げることはどうかと思ひますがやはり水道関係である程度一緒にやった方がいんではなかろう話題も出ておる位でございまして今後の行政のあり方としてこの三地区とどうか一体と成って広域行政の本旨にのっとっていくということの方があらゆる面がいんではなかろうふうに考えまして相手を見ながら時期を見ながら政治的工作によつてやっていくというより方法かなと思ひます。

要領を得ませんで御回答になつたかわかりませんが以上に申し上げます。

。三四番へ山本昇君。

御回答がございまして、私どもはあらゆる機会を通じて議会の意思の尊重ということを常にお願ひしております。

予算審議にありましてもあるいは決算の審査にありましても果して議会の意思というものが議会の考え方というものが市政の方へどのように具現されていくかということをおつたえを要求して参つております。

しかして今回の四十二年度予算の提出にありまして市長さんの施政方針の中に私はこの議会みずからきびい態度をもつてのそんな定員減に対する関心をどの程度お持ちになつてどのようなお考えをされているかということをおつたえを期待しております。

かかるにこの点につきましても何ら一言半句もふれていない。

果して議会側の態度、議会の意思というものが執行部の責任者にどのように反映されているかということが疑ひたくなります。

かような親睦からあえて私御質問申しに付た次第でございます。
議会がやつても議会側のかつたという考え方があるのではな
いか。もしそうだとすればこれは大へな問題であります。すくとも私と
も議会入は議会を通じて市民の福祉のためにすしでも役立ちた
い。また市政発展のために微力をささげたいという熱意に燃えてや
る。というよりは等しく議員諸候お持ちでございます。そういう
信念から現われたい行動。そういう信念に基いたお願い。行動。そう
いふものを当局の責任者が何う振り向かぬというところでこれは重大
に決意せざるを得ないのであります。しかして今回の施設方針の中にそ
ういふものが少しもふれられてあつたならば議会の意思を考え
てくれているのだというところで満足しませんがそれがふれられていない。
のみならず予算編成の面においてこういう議会側の御意見に
あつて、こういうふうになりまして、こういう具体的事例がないというこ
とは、はなはだ残念でならない。そういうことを十分考えたい。たゞまゐりて

今後どのように考えるかもう一ぺん確固たる信念を披瀝して
いただきたい。さらにまた広域行政町村合併の問題につきまゝて
助役さんは県の指導政治的ないわゆる町等の立場において考
慮していただきたい。その気持はよくわかります。わかりますけれども、すく
とも政治的配慮においてやるというならば助役さんもふれまゝに
けれども改選時期を迎えて云々ということをおっしゃられまゝに
けれども私をいっていただくならばこの改選時期こそもっともよい機会
ではないかと存じます。そして、この機会をとらえて強かに推進すべきで
はないか。かように考える次第でございます。

もちろん相手のある仕事でひとりずもうではできません。ことは承知して
おります。承知しておりますけれども市長さんがこれこそおれのやる
仕事だ。という信念に基いたならばもう少し積極的にかゝる具体的
な話し合ひができるのではないかと申し上げますけれども、この点についての
信念、お考えをもう一ぺんお示し願いたい。

市長職務代理者助役（小島武男君）

広域行政の問題につきまゝては非常にデリケートの問題があるわけでございますが考え方としては首長の改選時期であるので時期としてはよかつたのではなかつたかということでございますがこれは当然考えられておたのでございませうがその時期を得ずしてこの時期になつたということでございます。

やはり町村の合併というのはいういふ準備で一年位かかるのが普通でございます。まして早速この案につきまゝては本間市長が帰りまゐたならば皆さんの御意伺も特に伝へまして早速準備を進めていくというふうに考えております。

それから皆さんの方の定員減につきまゝては当初の方針には申し上げませんでしたが次の任期からということであまり露骨にかかづるのもどうかと思ひまして当初にはあれいたしませんか。もうん効力が発生しおゝた時期におきまして申し上げる機会もあると思ひます。

先般の議会で定員減が議決になったこと自体に對して非常に感謝しておりますがわれわれ執行部においても皆之の意見を仕事の上にも影響を及ぼすというところは先ほど申した通りでございます。

○三四番へ山本昇君一

助役さんの立場としてほそれ以上おっしゃられたいと思ひますが私は第一点にござりましてこれを主めたのはわれわれ現在おる議員でございまして改選された議員ではなかつたことをはっきり御認識したきたり。現在の議員に對します一応の意見表示があるのが當然でございまして助役さんのいわれることはむしろ違ふと思う。さうにまた今後、広域行政の面につきまして市長さんがお歸りになります。いたるところ相談されまして二年先、三年先というのふまなことをいわれて、これこそやりたいたという線を行つて早期実現のために御努力願いますように心からお願ひいたしまして一応私の質問を

打ち切りです。

二〇番（辻田実君）

三七ページ目企画費十九節負担金　この中に東京湾統合開発協議会負担金五万円盛りされており、説明では東京湾統合開発の受益者においてこれらを負担していく。こういうたてまえで計上したのだということがいわれたわけでございませう。

私は東京湾統合開発につきましてもむしろ館山はその被害地ではなかと思っております。市はこの案についてどのようなようにお考えになつておるか、それから負担金を納める受益地域につきましてもどの地域が含まれるか明らかになってきたというのか、第一点でございませう。

二番目に三九ページ諸費負担金の中で交通整理員五人ということが出ており、専任職員を置くことは非常に結構だと思ひます。しかしながら、今、館山市にはたくさんのおボランティア的な交通整理をやっている方が非常にたくさんおります。

青少年相談員におりても参加してありますがこの五人の職員を配
置することがボランティアでやられてゐる問題にどう影響を及ぼ
すのかそれから専任職員はどういう経歴でどういう資格を持て
おるのかという形でこの五人の人を任命して行くのかこの点につ
いて伺ひたいわけでございます。

企画課長（谷貝茂生君）

第一点につきましてお答え申し上げます。

東京湾総合開発協議会でござりますがこれは千葉県と東京
都と神奈川とその県内の関係市町村が一応会員ということにな
つておりまして大体千葉県は内湾関係の町村で大体鶴山まで
でございます。

受益者と申してござりますのは橋がかけるというような場合でも
これは当方面への連絡等も早くはるし観光面におきましても
プラスする東京湾の総合開発ということでございますので現在

埋め立て等進行しておりますが、鶴山市といたしまゝとも、いろいろ方面におきまゝに開発が促進されることは非常にプラスになつてくるのではないかと、このことから特に県の方からも協議会が入の要請もございまして、この二三年前に加はりました。その後一時理事になつたこともございしますが、会員としての負担を計上したわけでもありません。

。商工観光課長（小沢正治君）

交通整理員の問題でございしますが、今回特に学童保護という観点からこの問題を取り上げまして、那る船舶、北条、鶴山、東という五校を対象といたしまして、学童の登下校に最低の安全誘導的指導を担当してもらうというのを、四丁二年度に一応実施して見るということ。この五校を考へておるわけでもございまして、この担当する内容といたしましては子供たちの登下校に際して安全誘導することと、登下校の間の昼間の時間、夜間に教育委

員会の方で教材を購入して校内で交通安全に関する学科を実施するわけで直接先生方の助手となって働いていただく従ってルールの関係は採用したしました当初において警察の交通課の方で専門的な法的な問題や技術的な問題をしっかりと訓練していただけてやっていくということで警察、交通安全協会と三者の話し合ひで準備を進めておるわけでございましてこれが具現化されたあかつきには交通安全協会の各指導員と十分連携協力態勢を取りまして交通安全に当たっていただくとおもうことでございあります。

○一〇番一ヶ田実君一

第一桌の東京湾の問題でございすけれども、ただ安易に東京湾開発云々という形の中でやられていくことについて不満なわけでございすけれどもそういう中で鶴山市としての発言、それらについてあくまでも利益的な面で発言が行なわれてきたかそれとも

むしろブレーキをかけるという面できにわか簡単に見えておき
たいと思います。

二番目の交通専任職員ですけれども現在やっております相談員そ
ういう方たちとの話し合いが持たれたか、簡単に御答弁願いた
いと思います。

企画課長（谷貝茂生君）

御質問でございませうけれども市長がいつておりまして私たちその
内容を伺っておりますので申し分ないでございませうけれども御答
へ願います。

商工観光課長（沢正治君）

第二点の関係でございませうがこれは十分話し合いの結果でございまして
私どもの計画に打ちあけて積極的にこれを推進していったんように
要望を出されておる位でございませう。

三番（辻田実君）

ニ桌につきまゝてはる解いたしあつた。

三桌目としたしまして二ページ十九節の農村青年グループ育成助
成助金四万円でございませう。これは昨年六万でございましてが補正予
算においても指摘いたしましてがどういうわけで二万内減額したのか
この根拠を承りていたにきたい。

それから五ページ館山高枝務管に伴う地元負担金でございませうが
館山の分として七百万程度が負担されるわけでございませうが通告質問の
中でいろいろお尋ねしたわけでございませうけれどもその中で今年はいくらの
事業が積み重ねられて特別な予算だ。財政的には非常に苦しいのだ
と。このことを強調されまして、県立務管当時いろいろな付帯条件を付
けてやることは館山市の今後の財政に支障をきたすのではなかりか
という質問をいたしまして、当時助役さんも答弁しておるわけでござ
いませうが財政事情が苦しいとか特別の事情があるときには延いてもら
うとか館山市の財政を圧迫しないように交渉できるので政治交渉

にふては当局を信頼してもらうたいという発言があったわけでございます。

今年七百五十万、各町村から五百万ほどもらっておりまして、千三百万という予算を今年やる必要がないような気がしたわけでございますが、その点について今後こういう問題をどうするかというのと、今年の特異的予算というところで説明しておきながら、この程度だったら出るという判断をされたのか、この点について伺いたうわけでございます。それから二、三ページ十八節、備品購入費の中で、図書購入八百冊というところで九十万ほど訂正されております。

図書購入は結構なことでございまして、図書購入に訂する市民の声というものがどのように反映されておるか、図書館運営審議会とかそういう中で、図書購入の希望なりが訂議されておるか、あるいは利用者に対するアンケートとかがなされておるか、この点についてうわくお伺いしたいと思っております。

○農林水産課長（伊藤幸太郎君）

農村青年グループに対する補助金の問題でございすが四十一年度から県の補助金が少くなったわけでございすが、ございすので、それに合わせて市も二十万減額したという状況でございす。

私の方の考え方として、この補助金を増額することよりも別の面で私としては四十二年度中に考えた問題があるわけでございす。

といふのは後継者問題というふうなもの、非常に重要な問題として考えられておるわけでございすので、それらの面を合わせて農村青年後継者という一つのグループの再編成というものを考えていきたい。あるいはまたそういう人たちの定期的な会合が持てるような一つの組織作りを考えていきたい。

御承知のように改良普及事務所におきましても、郡市を通じての学校卒業者を対象とした研修会等も開かれておるわけでございすので、それらの関係とも合わせて今申し上げたような

ものを考えた。もう一つそれに対しての助成あるいは補助については別個に考慮してみたいという構想を持ってあるわけでございます。もう一つ意味でございますので青年グループに對します補助としてはこの程度にとどめておきたいというところでございます。

市長職務代理者助役（小松武男君）

館山高校の負担金について申し上げます。

館山高校の果立柳管に伴う負担金につきまゝは四十一年度三月十七日の議会において協賛を経て契約を結んだわけでございます。そのときの条件に果立柳管後におきまゝに経費負担すべき四項目があるわけでございますがその二項目に体育館建設の負担金がございます。これは当初五千二百二十万円という統予算の予定であつたんですが幸ひして二千七百二十四万円できた。この負担率は三分の一でございますのでその限度内という契約に基きまゝの当初の計画ですと千七百五十万位の負担額を千三百万ですんだ。

この点は非常に市としては有利であつたわけでございますが、そこで今年の苦しい予算ではせや、たかという御質問でございますが、これは四十一年度に寄付すべき約束の金でございまして、四十一年度は財政上の関係で一年待つてもらつて、四十二年度に納めたという事でございまして、これは契約に基づく負担金でございまして、本年度予算に計に入らしてできるなら五月まで納付して、果は四十一年度の会計で納入してもらつた。こういう約束でございまして、今後のいろいろ問題ですが、これらにつきましても、すでに内面工作はしておりますが、めんどうを見てもうとうという努力をいたしと思ひますが、約束は約束として納める。こういうことでございまして。

の社会教育課長（源間利一君）

図書館の購入でございしますが、御指摘いただきましたように、四十一年度におきましては、図書館長の諮問機関としての図書館運営審議会につきましても、会の構成もいたしておりません。従つて会議も持つて

いなりという事実を申し上げて深くおわびするわけでございます。
なお四十二年度におきましては、この八百冊の購入につきまゝ、審議会にか
けまた図書館でいうところの基本分類の圖書の平均値と利用者の
奥能のかかわりの中で適切な購入計画を立てて参りたい。
このように考えております。

○一〇番（辻田実君）

二点の館高の問題については、今後果敢議員もいることでござり
ますし、財政事情の苦しいときには見障りてもらうように努力してい
ただきたいと思っております。

第一点でございしますが、これについては非常に遺憾であるわけではござい
ます。館山市の中で農村青年三千才前後の人たちが集まっておる
唯一のグループでございします。これらの人たちが先だって、県内の先進地
視察をしております。

前年度は合宿研究修を行なっております。

この青年グループの予算を削る必要は何らなめではなかと見
います。この内容を検討されたらもっともつとやらなければならい。

別途後継者育成協議会というものをもつてそれに補助してやっ
ていきなさい。ということをおしやっておりますが屋上屋を重ねるような
ほかの組織を置かれてはむしろ困ると思っております。小さな組織
でございましてけれどもとこまでめんどうを見てお育ていくそれで
いけるければ別の組織を作ることは必要だと思ひます。

先だつての補正予算のときには果て切られたのでやむなく切った。
しかし今後やうていくということはいつておりながらこれは時間的に
あまり短かかったから手続できなかったかもしれません。私はさうい
う意向があるならば助役さんにも聞きまゝが別の組織を作ってい
くことは農村の青年を混乱させるだけでございまして青年グループ
一本にしてそれを育てていくということが本当の青年活動の育成
にもなり、後継者の育成にもつながるわけではございませう。

この点の考之方組織を幾つも作る事によつて目先をかえていくことか
いと思つてゐるのか。この点によつてお伺ひたい。それから圖書購入の問
題でございますけれども一回も招集してないということでは社会教養月
不在といわざるを得ない。この点によつてはいい過ぎになるかも知れませんか
公民館長の選定そのものが問題では何かと思ひます。そういうことで
やれなければやめてもらへばいい身も切つてもやるような館長なり公
民館審議委員になる人をたくさん知つております。そういう人を
推せますよ。予算を使つたので会議も開かれたりということ
では社教の立場から大担に整理して熱意のある人を選ぶように
していただきたい。まあなければ九十万というものがむだだと思います
ので今年には審議会ができるような委員を選んできて特にやつてら
だきたい。

この点によつて御質問いたします。

○農林水産課長（伊藤幸太郎君）

先ほどの説明で言葉が足りなかつたかと思ひますが私の申し上げ
まゝたのは現任の青年グループの仲間とは別にそういった広合を
作るのだという意味で申し上げたのではございせん、こういう固まり
を甲心にしてほかにも研究グループもございまして、後継者の学
校卒業後間も何若し方々の集まりもございますのでそれらを
統合して一つの固まりを作つてみたい。それを含めまして広合の
助成その他を考慮して参りたいという考え方でございまして
御承願いたしたいと思います。

。社会教育課長（源間利一郎君）

四十一年度は本当に申し分ない、おわび申し上げる次第でござ
います。四十一年度におきましては先ほどの御指摘の線にそいまして
条例規制もあることでございまして、その線にそつて図書館長の
諮問機関である図書館運営審議委員会の構成並びに
会の運営につきまゝて適正を期する中で九十万円相当の図書

購入に當つて参りたい。

二のように申し上げるわけでございます。

○議長（田中祿郎 君）

暫時休憩いたします。

午後三時三十八分 休憩

午後五時十七分 再開

○議長（田中祿郎 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

今日の会議はこれにて延会といたします。

次会は明三月二十三日午前十時開会といたします。

その議事は本日引き続き議案第三号乃至第九号

昭和四十二年予算の質疑を継続いたし奉る

午後五時十八分延会

本日の会議に付いた事件

一議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎 鈴木 不正一郎

小柴 孝 館 石 佐 蔵

田 中 祿 郎 秋 山 六三郎

田 村 源治郎 望 月 照 正

安 西 益 男 辻 田 実

石 井 正 菊 井 敏 博

志 村 信 作 小 沢 恵太郎

関

武夫

里川

佐太郎

西

村

真次

藤

田

好

治

保

科

忠夫

江

田

徳

太郎

君

塚

善三

中

村

省

吾

島

野

茂樹郎

嶋

田

繁

繁

山

田

教

鈴

木

市

蔵

三

沢

節

高

橋

文

治

山

本

昇

松

本

藤

太郎

欠席議員

萩

生

田

安

藤

亀

吉

安

沢

徳

山

口

康

食口司調令

